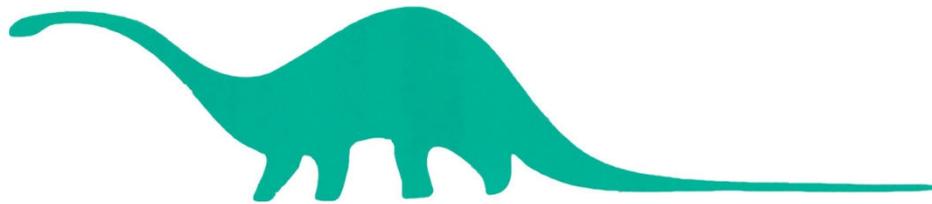


C.L. information

～Vol.17(10月号)2012～



今月号の特集： 環境衛生チェック
ペストコントロールで扱う薬剤について
食中毒情報

株式会社コントロール・ラボ
<http://controllabo.co.jp>

環境衛生チェック

コントロール・ラボではお客様の食品製造現場などに伺い、衛生慣行や製造環境改善、製品や環境の微生物検査などを行う「環境衛生チェック」を行っています。ここでは環境衛生チェックの内容・目的・項目などをご紹介します。

環境衛生チェックとは？

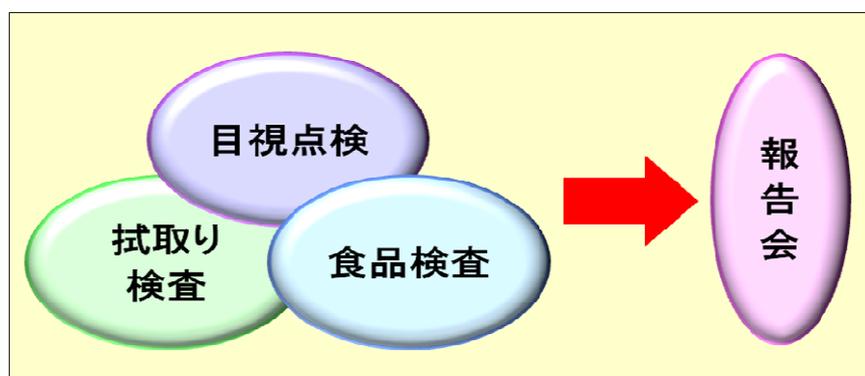
レストランや病院厨房、社員食堂や食品工場などの食品関連施設に伺い、衛生点検表による目視点検、拭き取り検査、食品検査などを行います。また、写真やコメント付きの報告書に現状の問題点・改善提案を挙げ、報告します。

環境衛生チェックの目的は？

衛生管理の現状をしっかりと把握することで、潜在的なリスクを顕在化させます。また、不足している事項や今後必要と考えられる改善内容をご提案することで、食品リスクを低減して、安全な食品づくりに役立てていただくことができます。また、定期的を実施することで衛生環境のスパイラルアップにつなげることができます。

環境衛生チェックの内容は？

食品安全には従業員様の衛生慣行、施設・設備、調理手順などさまざまな要因が関わっており、ひとつでも欠けると安全を損なう危険があります。コントロール・ラボの環境衛生チェックでは、目視点検・環境拭き取り検査(手指拭き取り検査を含む)・食品検査を行うことで衛生環境の総合的な判断を行います。



目視点検 :コントロール・ラボでは食品衛生法や大量調理施設衛生管理マニュアル、各種衛生規範などを鑑みて独自の衛生点検表を用いて点検を行います。

拭取り検査 :食品を取り扱う器具や機材、従事者の手指などが検査対象となります。器具や手指から食品への交差汚染のリスクを知ることができます。

食品検査 :食品を検査所へ持ち帰り、微生物検査を行います。食中毒菌などの検査を行う事で、食中毒発生のリスクを知ることができます。主に、一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌などを検査します。

報告会 :衛生診断の結果を報告書にまとめ、担当者の方に報告会を行います。また、定期的な診断・報告会を行うことで衛生環境の継続的改善につなげることができます。

食品の製造環境は現場によってさまざまです。作業効率と衛生確保の両立は難しいとは思いますが、現状の作業環境を活かしつつ、より安全で衛生的な食品製造をお手伝いさせていただきます。

ペストコントロールで扱う薬剤について

私たち人間の暮らしになくてはならない、人に有害な生物を防除・制御する「ペストコントロール」。弊社では、綿密な調査や害虫・害獣の生態や習性を基にして、環境や人に配慮した適切な駆除や予防対策を行っています。このような駆除や予防時に活躍するのが、バラエティに富んだ薬剤達です。今回のC.L.information では、ペストコントロール従事者にとって良きパートナーとも言える薬剤、とりわけ殺虫剤について、その種類や関連する法律、現場での使用方法をご紹介します。

殺虫剤の区分と関連する法律

殺虫剤にはそれぞれ関連する法律が制定されており、使用する場面や害虫等の種類に応じて使い分ける必要があります。ペストコントロールで扱う殺虫剤に関連する法律としては、薬事法、化審法、農薬取締り法が挙げられます。また、これらの法律に従って殺虫剤の区分も異なってきます。使用に際しては、使用上の注意を守って使用しなければなりません。以下の表に関連する法律と区分をまとめました。

害虫の区分	対象	関連する法律	殺虫剤の区分
衛生害虫 (人に疾病を媒介する害虫)	ゴキブリ、ハエ、蚊、トコジラミ、ノミ等	薬事法	医薬品、医薬部外品
不快害虫 (見た目に不快感を与える害虫)	ヤスデ、カメムシ、ユスリカ等	化審法	不快害虫用殺虫剤(雑品)
木材害虫 (家屋等を食害する害虫)	シロアリ、ヒラタキクイムシ、カミキリムシ等	化審法	木材保存剤(雑品)
衣料害虫 (衣料品を食害する害虫)	カツオブシムシ、シミ、イガ等	化審法	繊維製品防虫剤(雑品)
家畜・動物害虫 (家畜やペットの害虫)	ノミ、マダニ、ハエ、アブ等	薬事法	動物用医薬品、動物用医薬部外品
農業害虫 (農作物や園芸植物等の害虫)	ウンカ、アブラムシ、ハダニ、ゲンバユスリカ等	農薬取締法	農薬(農業用殺虫剤、家庭園芸用殺虫剤)

殺虫剤の使用方法

散布処理

ハンドスプレーヤー等を使用し、壁面、床面、排水溝、室内空間等に散布する方法です。害虫に向けて直接的に散布する直接散布と、予め薬剤を塗布しておき、そこを通過した虫を薬面に触れさせることで効果を発揮する残留散布に分けられます。

毒餌処理

殺虫成分を餌に混ぜ、これを食べさせることで害虫を殺す処理方法です。速効的ではありませんが、ゴキブリの場合では、殺虫成分を体表に付着させたり糞や吐瀉物として潜伏場所に持ち運び、潜伏している他のゴキブリにも効果を発揮するドミノ効果も期待できます。

高深度注入処理

アクチゾール等を使用し、薬剤を非常に細かな粒子にして噴霧する方法です。非常に狭く深い隙間や壁などの亀裂部分等の深部にまで薬剤を到達させることができるため、隙間に潜むゴキブリのフラッシング(追い出し)等に用います。

殺虫剤の種類

薬剤は有機リン剤といったようにおおまかな種類によって作用や効果が異なります。また、有効成分の一般名と実際に販売されている商品名は異なります。次頁の表に薬剤の種類と作用について簡単にまとめました。

殺虫剤の種類	作用と効果	有効成分の一般名
有機リン剤	神経酵素の作用を阻害することで痙攣させ殺虫する。 残効性に優れたものと速効性のものがある。	フェニトロチオン ジクロルボス テメホス プロペタンホス 等
ピレスロイド剤	神経系の情報伝達を阻害する。速効性が高く、残効性は低いものが多い。	フェントリン ペルメトリン フタルスリン 等
カーバメイト剤	作用は有機リン剤と同様。 残効性は高い。	プロボクスル
昆虫成長抑制剤	脱皮や羽化を妨げる。 蚊やハエなどの幼虫に対して効果が高い。	メトプレン ジフルベンズロン
その他の有効成分	昆虫に食べさせることで効果があるベイト(食毒)剤等。 遅効性がある。	ヒドラメチルノン ホウ酸 等

製造環境の改善をお考えでしたら、弊社までご相談下さい。

先月の食中毒情報

先月は、旅館の食事やイベントで提供された弁当を原因として多数の患者が発生する食中毒事故が起きていました。気候は涼しくなってきましたが、まだまだ注意が必要です。また、行楽シーズンを迎え、毒キノコなどの山菜を原因とする食中毒が多数発生しています。ツキヨタケやイボテンガタケなど食用と区別が難しいものがありますので、食用と判断できないものは口にしないように注意して下さい。

これからノロウイルスを原因とした食中毒の発生が増加することが予想されます。食材の管理とともに、調理従事者の保菌調査や手洗いなどの衛生管理を再度見直して、食中毒発生防止に努めてください。

全国食中毒発生状況 (9/15～10/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
毒キノコ	9	23
カンピロバクター	3	33
サルモネラ	2	113
黄色ブドウ球菌	2	35
病原大腸菌	2	282
ノロウイルス	1	20
不明・その他	7	193

株式会社コントロールラボ

本 社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7
 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15
 福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3

TEL:078-582-3575 FAX:078-582-3576
 TEL:078-858-6801 FAX:078-858-6802
 TEL:092-575-0630 FAX:092-586-6321

フリーダイヤル

☎0120-540-643

URL <http://controllabo.co.jp>



株式会社コントロールラボ



エムテック衛生検査所